

# 日本における子ども向け『西遊記』について

## — 挿話選択の傾向と方法 —

井 上 浩 一

### 要 旨

本稿では、日本で刊行された児童書西遊記の中で頁数の少ないものについて、挿話ごとの採用頻度を調査し、孫悟空が五行山に閉じ込められるまでの部分と、悟空・八戒・沙悟浄の弟子入り、金角・銀角との対決、結末の経典を得る部分の挿話が多く採用されていることを明らかにした。また編集にあたって、挿話を全体的に採用するものと、部分的に採用するものがあり、部分的に採用する書籍は、終戦以前は五行山以前の挿話を中心に採用していたが、近年では西天取経の旅の部分から挿話を採用するものが増加していることを明らかにした。

キーワード：中国小説／西遊記／文化受容／児童書／挿話の取捨選択

### 1. はじめに

『西遊記』という書名を聞いて、我々日本人が想起するのはどのようなエピソードであろうか。もちろん挙げられるエピソードに個人差はあると思われるが、当然、各個人がこれまでに何らかの形で受容した西遊記（以下、書名を表す場合のみ『』を付ける）に基づいて想起がなされるはずである。西遊記受容の媒体は、原文に始まり、翻訳、翻案小説、コミック、テレビ等様々なものが考えられるが、本稿では児童書を対象とし、日本において西遊記のどのエピソード（挿話）が、どのように受容されているのかという問題の一端を検討してみたい。日本における児童書西遊記の重要性については、田場智子「日本における西遊記の翻訳——児童書を中心として」（『中国文化論叢』11号、2002）の中で以下のように述べられている。

西遊記は日本で子供から大人まで誰もがよく知っている中国文学の作品である。しかし、多くの人は西遊記が100回という長編の物語であることを知らないのではないだろうか。また長編だと知っていても完訳を読んだことのある人は少ないだろう。完訳も出版されているが、西遊記は子供の読物というイメージが強く、一般的に出版されている西遊記はほとんど児童書だからだ。（中略）明治・大正・昭和と西遊記は主に児童・少年向きの物語として数多く出版された。その数は膨大なものだったが、児童書であるため軽視され、現在まで残る訳本は少ない。

「ほとんどが児童書」「その数は膨大」という表現については、いくらかの留保が必要かもしれないが<sup>1</sup>、少なくとも子ども向け書籍が、日本における西遊記受容の重要な一形態であることは間違いない。そこで本稿では日本で刊行された児童書西遊記において、

1. 西遊記の、どの挿話がよく採用されているのか
2. どのような採用のされ方をしているのか

という問題について考察を行いたい。なお児童書西遊記は、原作の挿話を用いている（新たに創作したストーリーではない）ものだけでも数百点以上にのぼるため、ここでは挿話の取捨選択の傾向がより明確に現れるよう、百頁程度までの短いもので、筆者が目撃し得た61点を調査対象とする（頁数の多い書籍であっても、童話集など、西遊記を題材とした百頁以内の作品が収められているものは対象とした）。児童書西遊記の先行研究では、これら頁数の少ない書籍を「完全な消耗品」と見なし、調査が難しいことを理由に研究対象から外すものもあるが<sup>2</sup>、本稿の目的は、全体的な傾向を把握することであり、刊行された全ての書籍を調査する必要性はそれほど高くはないと思われることと、何より限られたページ数にまとめられた書籍は、編集時によりシビアな挿話の取捨選択が行われているはずであり、編者が西遊記を編纂する際に外せないと考えた挿話がどれであるのか明確になりやすいと思われる為、本稿では敢えて頁数の少ないものを研究対象とした。

刊行時期は、先行研究でも児童書西遊記として最初に挙げられることの多い<sup>3</sup> 巖谷小波『孫悟空』（世界お伽噺10、博文館）が刊行された1899年から、2011年までを対象とする。

## 2. 原作『西遊記』の挿話

原作のどの挿話が採用されているのかを考察する場合、それに先だって原作にどのような挿話があるのかを把握しなければならない。そこでまず原作『西遊記』の挿話を分類・整理する必要がある。

なお、「原作」といっても中国小説の場合、版本によってストーリーが大きく異なる場合があるが、『西遊記』は『水滸伝』等とは異なり、版本間の主な差異は文章の簡繁や詩詞の多寡であり、挿話の増減はそれほど見られず、『西遊真詮』等の清刊本に陳光蕊（玄奘の父）のエピソードが加えられている程度である<sup>4</sup>。そこで本稿では、陳光蕊のエピソードを除き、以下のように挿話を整理・分類した。

まず全体を大きく以下の3つの部分に分ける。

- A 孫悟空を主人公とし、悟空が釈迦如来によって五行山に閉じ込められるまでを描いた部分（『西遊真詮』第1回から第7回）
- B 玄奘が西天取經に行くまでのいきさつを述べた部分（同第8回から第12回）
- C 西天取經の旅と結末（同第13回から第100回）

そして、さらにそれぞれを以下のように分類した。C部分については玄奘三蔵一行が何らかの災難に襲われて解決するまでを1つのエピソードとしたが、児童書に採用される際、その一部のみを用いられる事もある挿話は、さらにそれを a・b・(c) と分けた。

A

- |                |                |
|----------------|----------------|
| 01 花果山水簾洞の王になる | 06 弼馬温となる      |
| 02 仙術を学ぶ       | 07 齊天大聖となる     |
| 03 混世魔王を倒す     | 08 蟠桃会を乱す      |
| 04 如意金箍棒を手に入れる | 09 天兵と戦う       |
| 05 冥界を荒らす      | 10 五行山にとじこめられる |

B

- |                 |              |
|-----------------|--------------|
| 01 観音、取経者の弟子を探す | 03 太宗、冥界へ行く  |
| 02 魏徴、龍を斬る      | 04 玄奘、取経者となる |

C

- |                             |                            |
|-----------------------------|----------------------------|
| 01 双叉嶺                      | 21 火焰山の牛魔王                 |
| 02 孫悟空の弟子入り                 | 22 祭賽国と九頭虫                 |
| 03 龍馬の弟子入り                  | 23 荊棘嶺の樹木精                 |
| 04 観音院の老僧と黒風大王              | 24 小雷音寺の黄眉童兒               |
| 05 猪八戒の弟子入り                 | 25 稀柿衞のうわばみ                |
| 06 黄風洞                      | 26 朱紫国と賽太歳                 |
| 07 沙悟浄の弟子入り                 | 27 盤糸洞の女怪と黄花観の多目怪          |
| 08 四聖、八戒を懲らしめる              | 28 獅駝洞の三魔王                 |
| 09 人参果                      | 29 比丘国                     |
| 10 白骨精と黄袍怪<br>(a 白骨精・b 黄袍怪) | 30 鎮海寺と陷空山の地湧婦人            |
| 11 金角・銀角                    | 31 滅法国                     |
| 12 宝林寺と烏鷄国                  | 32 連環洞の南山大王                |
| 13 紅孩兒                      | 33 鳳仙郡に雨を降らす               |
| 14 黒水河                      | 34 玉華県と豹頭山の黄獅と九靈元聖         |
| 15 車遅国の三道士                  | 35 青龍山の三大王                 |
| 16 通天河                      | 36 天竺国のにせ公主                |
| 17 独角兕大王                    | 37 地靈県の寇員外                 |
| 18 三蔵・八戒の懐妊                 | 38 凌雲渡 (a)・雷音時 (b)・無字経 (c) |
| 19 西梁女人国                    | 39 再び通天河                   |
| 20 にせ悟空                     | 40 唐に真経を伝え (a)、神仏となる (b)   |

### 3. 対象となる児童書の調査結果

上記の分類に従って、本稿で対象とした百頁程度までの児童書西遊記が、どの挿話を使用しているのかを表に纏めたのが次頁から4頁にわたって掲げる表1である。

頁数の項の下にあるA・B・Cが西遊記全体を三つに分けた部分であり、その右側の番号が上記の挿話番号である。記載の都合上、調査対象とした児童書に一度も採用されていない挿話の番号は省略した。

そして、各児童書において、挿話が採用されている場合はその挿話番号の行に「2」と記入した。何も記入されていない箇所は採用されていない挿話であり、「1」と書かれたものは、その挿話の中心となる事件について、記述はあるものの、内容についての描写が無いものである。例えば、猪八戒が三蔵一行に加わった場面で、猪八戒が仲間になるいきさつを描いていれば「2」としたが、以下の文のように、事件について簡潔に述べただけの場合は「1」とした。

たびの とちゅうで、ぶたの ばけもの “ちょはっかい”に であいました。／ そん  
ごくうは 女の子に ばけ、ゆだんさせて やっつけ、おともに くわえました<sup>5</sup>

表1 小頁数児童書西遊記書目及び採用挿話一覧(1/4)

ID	1	2	3	4	5	6	7	8	10	11	12	13	14	15	16	17	18	
出版年	1899	1908	1921	1930	1939	1940	1941	1943	1946	1946	1946	1948	1948	1949	1950	1951	1955	
月	12	6	6	3	12	6	10	11	6	7	11	3	6	5		11	5	
日	5	20	5	15	16		10	10	15	10	20	1	25	30		20	30	
書名	孫悟空(世界お伽噺10)	世界お伽噺合本1	石の猿(赤い鳥の本6)	オトギカハリエ・ソンゴク(絵本絵ばなし集53)	孫悟空(講談社の絵本95)	孫悟空と八戒(講談社の絵本149)	孫悟空(火ノ山ノマキ)(講談社の絵本191)	孫悟空(小国民版) 小波世界お伽噺(支那篇)	孫悟空	孫悟空	俺ハ孫悟空	西遊記(世界童話選集II)	孫悟空(日報子供文庫世界名作選第2集)	少年・少女 孫悟空	学校劇集 世界名作物語	絵本西遊記 上	六年の世界名作読本	(世界古典名作選(日本児童文庫39))
編訳者	巖谷小波	大江小波	小山内薫	千葉省三	宇野浩二	宇野浩二	宇野浩二	巖谷小波	石上十地	平井房人	奥野庄太郎	新潟日報社文化局出版部	渡邊哲夫	宮津博	弓館芳夫	伊藤貴麿	大久保正太郎	
出版社	博文館	博文館	赤い鳥社	鈴木仁成堂	大日本雄弁会講談社	大日本雄弁会講談社	大日本雄弁会講談社	生活社	民生出版社	昭和出版	新緑社	文化局	新潟日報社	門野書店	光文社	トツパン	実業之日社	アルス
頁数	70	68	10	14	96	52	72	40	30	22	58	79	91	24	32	14	40	
A	01	2	2	2	2	2		2	2		2	2	2	2	2		2	
	02	2	2	2	2	2		2	2	2	2	1	2	2	2		2	
	03	2	2	2	2	2		2			2	2	2		2			
	04	2	2		2	2		2		2	2		2		2		1	
	05	2	2		2	2		2					2		2			
	06					2						2			2			
	07											2						
	08	2	2		2	2		2				2		2		2		1
	09	2	2		2	2		2				2	2	2		2		
	10	2	2	2	2	2		2	2	2	2	2	2	2	2	2		1
B	01											2						2
	03										1							
	04					2					2	1						2
	01										2							
C	02	2	2		2		2	2	2	2	1	2	2		2		2	2
	03										2		2		2		2	2
	04												2		2		2	2
	05					2			2			1	2		2		2	1
	06											2			2		2	
	07						2			2		2	2		2		2	1
	09					2			2	2		2	2		2			
	10a								2	2		2	2					2
	10b											2						2
	11					2												2
	12																	
	13																	
	15					2												
	16						2											
	17							2		2				2				
	18																	
	20																2	
	21							2						2				
	25																	
	27																	
28							2						2					
29																		
31																		
37																		
38a											2		2					
38b											2		2					
38c													2					
39																		
40a	2						2				2	2	2					2
40b	2	2						2				2	2					
分類	IIA1	IIA1	IIA2	IIA1	IIA1	IIC	IIC	IIA1	I	I	IIA1	I	I	IIA2	I	IIC	I	

表1 小頁数児童書西遊記書目及び採用挿話一覧(2/4)

ID	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	
出版年	1960	1961	1962	1962	1962	1965	1967	1977	1979	1980	1982	1984	1985	1985	1986	1986	
月	8	11	9	9	9	9	8	5	12		6	2	4	12	1	12	
日	1	5	10	15	25	15	25		10		20		5	18		5	
書名	号(こども絵本 第2巻第6号:通算10号)	そんごくう 仙女の庭	そんごくう (おはなし文庫 39)	孫悟空(講談社の絵本ゴルド版第5巻第18号)	10(西遊記・ろばの耳の王さま) (講談社の世界絵巻話全集)	春3(ジュニア版 世界の名作)	東洋の古典 西遊記・杜子春	孫悟空(153) (NHKこども講談)	西遊記	孫悟空大あばれ	ゆかいな孫悟空	そんごくう(せかいの名作ぶんどく26)	作シリーズ14)	孫悟空(オレマジ絵本名作)	西遊記ニケ国語絵本	そんごくう(世界名作フェア)	そんごくう(名作アニメ絵本シリーズ24)
編訳者	森いたる	佐藤春夫	くるすよしお	川崎大治	西山敏夫	村上知行	藤原一生	石山透	野尻抱影	唐澄	福井研介	桂木寛子	小川睦子	陳舜臣	平田昭吾	平田昭吾	
出版社	小学館	富山房	ポプラ社	講談社	講談社	国土社	小学館	版協会 日本放送出版	求龍堂	社・ほる出版	童牛社	金の星社	ポコオレマジ	ラポ教育セ	ポプラ社	永岡書店	
頁数	26	27	60	31	54	22	36	104	59	84	81	77	30	109	45	45	
A	01		2	1	2	2	2	2		2	2	2	2	2	2	2	
	02	1	2	1	2	2	2	2				2	2	2	2	2	
	03					2	2					2	2	2	2	2	
	04		1			2		2		2	2	2	2	2	2	2	
	05						1										
	06						1			2	2			2	2	2	
	07						1			2	2			2			
	08					2	2			2	2			2			
	09		2	2	2	2	2	2		2	2			2	2	2	
	10	2		2	2	2	2	2	2			2	2	2	2	2	
B	01											2					
	03																
	04																
C	01																
	02	2		2	2	2	2	2				2	2	2	2	2	
	03							2					2				
	04																
	05	2		2	2	2	2	2				1		2	2	2	
	06																
	07	2		2	2	2	2	2				1		2	2	2	
	09					2						2					
	10a																
	10b																
	11	2		2	2	2	2	2	2	2				2	2	2	
	12																
	13																
	15				2												
	16	2						2					2				
	17											2					
	18																
	20																
	21	2			2	2		2	2	2					2	2	2
	25					2											
27																	
28				2													
29									2								
31			2														
37																	
38a					2												
38b				2	2												
38c																	
39																	
40a	2			2	2		2	2				2	2		2	2	
40b				2								2					
分類	I	IIA2	I	I	I	IIA1	I	I	IIC	IIA2	IIA2	I	IIA1	I	I	I	

表1 小頁数児童書西遊記書目及び採用挿話一覧(3/4)

ID	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	
出版年	1987	1987	1988	1988	1991	1991	1994	1994	1997	1998	1998	2000	2002	2002	2004	2005	2006	
月	5	12	6	8	5	6	6	7	6	9	11	2	1	4	3	7	3	
日	14	15	30		1		1					1	20		29			
書名	いさくごくう(アニメ世界め)	かい名作11(こども)	そんごくう(23)(サンリオ名)	そんごくう(アニメファンタジー11)	し童話館2(講談社のおはなし冒険(シンドパッド)	のそんごくう(よい子とママ)	行3(アニメ絵本)おはなし世界旅	西遊記	絵本西遊記	さんごうほうしのかえりみち(チュウリツプえほんシリーズ)	作西遊記14(小学館世界の名著)	のおはなし17(えほん世界)	メ絵本16(世界名作アニメ)	本13(新・講談社の絵)	孫悟空(新・講談社の絵)	おはなしめいろせかいのた	不思議ものがたり	版!大型絵本(153)(決定)
編訳者	小宮山みのり	北川幸比古	立原えりか	平田昭吾	木暮正夫	平田昭吾	谷真介	唐亜明	太田大八	せなけいこ	谷真介	唐亜明	柳川茂	千葉幹夫	杉山亮	小山内薫	唐亜明	
出版社	講談社	国土社	サンリオ	ポプラ社	講談社	社ブティック	チャイルド本社	講談社	童心社	鈴木出版	小学館	講談社	永岡書店	講談社	館フレイベル	野ネット武蔵	借成社	
頁数	47	71	45	24	44	46	30	68	95	26	103	32	46	45	22	10	102	
A	01	2	2	2	2	2		1	2		2	2	2	2		2	2	
	02		2	2	2	2		1	2		2	2	2	2		2	1	
	03		2			2			2		2	2	2					
	04		2		2	2			2		2	2	2				2	
	05		2						2		2	2	2					
	06					1	2		2		2	2		2				
	07							1	2		2	2		2			2	
	08			2				2	2		2	2		2			2	
	09		2		2	1	2		2	2		2		2			2	
	10	2	2	2	2	2	2		2	2		2	2			2	2	
B	01								2		2							
	03									2								
	04								2		2							
C	01										2							
	02	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		2		2		2	
	03		2			2					2						1	
	04										2							
	05	2	2	2	1	2	2		1	2	2		2		2		1	
	06			2											2			
	07	2	2	2	1	2	2		1	2	2		2		2		1	
	09									2	2							
	10a									2	2	2	2					
	10b									2	2	2	2					
	11	2			2	2	2	2	2	2	2	2	2			2		2
	12									2								
	13											2						
	15											2						
	16									2		2						
	17										2							
	18										2							
	20										2							
	21	2	2			2	2	2	2	2	2	2				2		2
	25																	
	27																	
	28																	
	29											2						
	31										2							
37																		
38a										2								
38b										2								
38c										2								
39										2								
40a	2	2		2	2	2		2	2	2	2		2				2	
40b											2							
分類	I	I	I	I	I	I	II C	I	I	II C	I	II C	I	II A1	I	II A2	I	

表1 小頁数児童書西遊記書目及び採用挿話一覧(4/4)

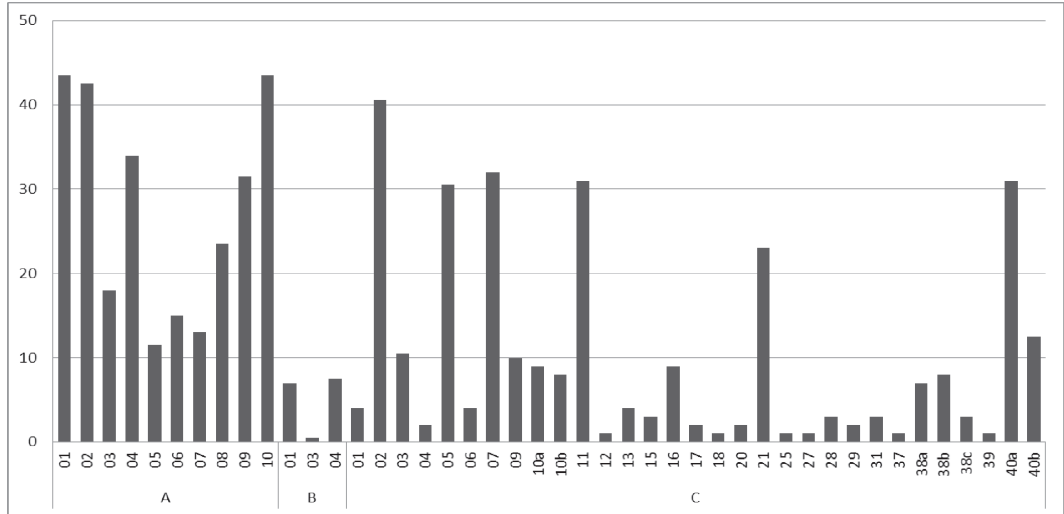
ID	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	挿話採用数		
出版年	2006	2006	2007	2008	2010	2010	2011	2011	2011	2011			
月	4	8	6	7	3	11	3	6	9	12			
日	24	20		18	11	17	17	30	2	10			
書名	くちからこどもが贈るドキドキとワクワクした	動く遊記(世界の名作童話)	西遊記	音齋藤名作選 小学1年生!	101シリーズ(決定版)	れだけ読むと心そだてる	ブッお話(ナツメ社)	いあげたいお話	あべれんぼうのしぼなし(中国出版)	の365話	ママおはなしおやすみ	頭のいい子を育てるおはなし	
編訳者	清水耕蔵	堀口ミネオ	平田昭吾	岸登美子(訳)	胡芳芳(文)	齋藤孝	井辻朱美(監修)	西本鶏介	永岡書店	田島信元	泉京鹿	千葉幹夫	主婦の友社
出版社	学習研究社	版産経新聞	金の星社	講談社	講談社	ナツメ社	ナツメ社	永岡書店	中国出版	トーハン	ナツメ社	主婦の友社	主婦の友社
頁数	16	24	63	6	20	12	2	24				3	
A	01	2	2			2	2	2				44	
	02	2	2			2	2	2		2		43	
	03						2	2				18	
	04		2	2			2	2		2		34	
	05							2				12	
	06			2				2				15	
	07			2			2	2				13	
	08			2			2	2				24	
	09		2	2				2	2			32	
	10		2	2			2	2			2	44	
B	01		2									7	
	03											0.5	
	04			2								2 7.5	
	01			2								4	
C	02		2	2			2	2		2	2	41	
	03			2								11	
	04											2	
	05		1	2			2	2		2	1	31	
	06											4	
	07		1	2	2		2	2		2	1	32	
	09											10	
	10a			2				2				9	
	10b							2				8	
	11	2	2	2		2	2	2		2	2	31	
	12											1	
	13			2								4	
	15											3	
	16											9	
	17											2	
	18											1	
	20											2	
	21			2								2 23	
	25											1	
	27			2								1	
	28											3	
	29											2	
	31											3	
	37											1	
38a			2							2	7		
38b			2							2	8		
38c											3		
39											1		
40a		2	2			2	2		2	2	31		
40b			2							1	13		
分類	II C	I	I	II C	II C	I	I	II A2	I	II C			



#### 4. 挿話の使用頻度

さて、次に表1の調査を元に、以下に様々な分析を行う。まずは日本の児童書西遊記に於ける各挿話の採用頻度を見ておきたい。前項までの表1を元に各挿話の使用頻度を表にしたのが以下の表2である。

表2 小頁数児童書西遊記における挿話の使用頻度



この表では各挿話の合計点を2で割った数値（ポイント——描写の無いものは0.5冊として計算したおおよその採用冊数）を縦軸とし、挿話番号を横軸としている。

表2に従って、児童書において比較的良好に採用される西遊記の挿話（ポイントが20以上のもの。30未満のものは（ ）に入れた）を並べると次の通りとなる。

- A01 花果山で生まれた石ザルがサル王となる。
- 02 仙人のもとで仙術を学び、孫悟空と名付けられる。
- 04 如意金箍棒を手に入れる。
- (08 天の役人となるも、蟠桃園、蟠桃会を荒らす。)
- 09 天兵らと戦う。
- 10 釈迦如来の掌から出られず、五行山に封印される。
- C02 西天取経に向かう玄奘に孫悟空が弟子入りする。
- 05・07 猪八戒・沙悟浄が玄奘に弟子入りする。
- 11 金角・銀角（や、牛魔王 21 ）など、妖怪退治をする。
- 40A 天竺に着いて取経に至る。

ここから見ると、近現代における日本の子ども向け西遊記では、A部分からの採用が多く、C部分からは悟空・八戒・沙悟浄の弟子入り、金角・銀角や火焰山の話、経典を得る結末部分が比較的高い頻度で採用されているということになる。

## 5. 挿話の採用パターン

### 5-1. 挿話の採用パターンの分類と点数

前項では、比較的高い頻度で採用されている挿話を列挙したが、日本における児童書西遊記のほとんどがこれらの挿話をまんべんなく採用している、というわけではない。表2で見たとおり、3分の2（40ポイント）以上の書籍で採用されているのは、A01・02・10、C02の4つの挿話だけであり、半数から3分の2（30～40ポイント）の書籍で採用されている挿話は6つあるが、残りは半数に満たない。

各挿話の採用率が全体的に低いのは、挿話の採用の方法に起因する。頁数の少ない西遊記では、頁数の多い書籍で一般的な、原作の全体から挿話を採用するタイプ（全体型、以下Ⅰ型とする）のものも少なくはないが、ある部分のみ、或いは一つ乃至は幾つかの挿話のみを採用するタイプ（部分型、以下Ⅱ型とする）の作品も一定数見られるからである。

Ⅱ型（部分型）はさらに、C部分（西天取経の旅）からのみ挿話を採用するⅡC型と、A部分（孫悟空が五行山に封じ込められるまで）を中心に挿話を採用するⅡA型に分類できる。A部分を中心に採用する作品の中には、C部分から、悟空・八戒・悟浄らの弟子入りの場面（C02・05・07）と、天竺についてからの場面（C38-40）も採用するものもよく見られるため、本稿の定義としては、A部分の挿話を採用し、上記（C02・05・07・38-40）以外のC部分の挿話を採用していないものをⅡA型としておきたい。

また、ⅡA型には孫悟空が西天取経の旅に行くものと行かないものがある。そこで、取経に行くものをⅡA1型、行かないものをⅡA2型とさらに分類する。

各採用パターン別の点数は以下の通り。

- I 全体型（五行山以前と妖怪退治を共に含むもの）… 34点
- II 部分型
  - II C C部分のみ（五行山以前の話の無いもの）… 11点
  - II A A部分中心（妖怪退治の話の無いもの）
    - II A 1 取経に行くもの … 9点
    - II A 2 取経に行かないもの … 7点

概ね、半数あまりが全体型で、残りを部分型のⅡC・ⅡA1・ⅡA2型で同程度に分け合っているという結果となった。

### 5-2. 時代による採用パターンの変化

前項で見た出版点数は、1899年から2011年までを通した全体的なものだが、どの時代においても常にこのような比率であったのだろうか。年代別に点数を纏めたのが次の表3である。年代は終戦まで（1945年以前）・戦後復興期（1946-1953年）・高度経済成長期（1954-1973年）・安定成長期（1974-1991年）・バブル崩壊後（1992-2000）・今世紀（2001-2011）と、社会状況によって年代を区分している。

表3 採用パターンの分類別件数及び年代別件数

分類	-1945	1946-1953	1954-1973	1974-1991	1992-2000	2001-2011
I	0	5	7	11	3	8
II C	2	1	0	1	3	4
II A 1	5	1	1	1	0	1
II A 2	1	1	1	2	0	2
合計	8	8	9	15	6	15

表3からは、以下のような事が読み取れるだろう。

1. I型は終戦前には見られないが、それ以降は継続的に半数以上を占めている。
2. II A 2は分布が分散している。
3. II A 1が終戦以前に多かったのに対し、II Cは近年増加している。

この3点を念頭に置きながら、次に各採用パターンの書籍を具体的に紹介し、この表が何を意味するのかを考えてみたい。

### 5-3. I (全体)型について

本稿の調査対象外とした、頁数の多い児童書西遊記では、早い時期のものから近年刊行されたものに到るまで、その多くがI (全体)型であるが、頁数の少ない作品ではその出現は意外に遅く、目録し得た書籍の中では、1946年刊行の石上十地『孫悟空』(民生出版社)、平井房人『俺ハ孫悟空』(昭和出版)が最も早い。前者の頁数が30頁、後者が22頁である。両者ともA部分を簡潔に述べた後、五行山に封じ込められた孫悟空が(後者は八戒・悟浄も)玄奘に弟子入りする部分を書き、その後の部分からは、前者はC09人参果とC17独角兕大王の挿話を採用し、後者は同じくC09人参果とC16通天河の挿話を採用している。どちらも後にC部分のスタンダードとなるC11金角・銀角と、C21火焰山の牛魔王を採用せず、取経に到った場面も描いていない。

なお、宇野浩二による「講談社の絵本」シリーズの三冊(『孫悟空』(講談社の絵本95、1939)・『孫悟空と八戒』(講談社の絵本149、1940)・『孫悟空(火ノ山ノマキ)』(講談社の絵本191、1941)出版はすべて大日本雄弁会講談社)が、当初から三冊で全体型とすることを企図されていたのであれば、対象書籍の中ではこれが最も早い全体型の児童書とも言えるが、企図の有無については現時点で判断がつかないため、本稿では保留しておく。

その後、表3に見られるように、I型の児童書は、コンスタントに刊行される。

特に1986年刊行の平田昭吾『そんごくう』(世界名作ファンタジー20、ポプラ社)を嚆矢とする「アニメ絵本」は、ほとんどがこの編集パターンを採用しており、I型が半数を占める原因の一つとなっている。表1のID番号で示すと、33・34・35・37・38・40・47・53などがこれに該当するが、これらの本は、A部分から幾つかの挿話を採用し、悟空・八戒・悟浄の弟子入りを書き、1〜3つ程度の妖怪退治(C11金角・銀角と、C21火焰山の牛魔王が多いが、多少の出入りがある)を

経て、取経に至るという構成になっている、I型の基本パターンを成している。

#### 5-4. II A 2型の書籍

次に、II A 2型、則ちA部分から挿話を採用し、孫悟空が取経に行かないというタイプのものを見てみたい。

これらは大きく二つのグループに分けられる。

一つは、西遊記のある場面にスポットを当てる形で挿話を採用し、その場面がA部分だったために、結果的にII A 2型となったものである。以下の四つがこれに該当する。

- ① 小山内薫「石の猿」(『石の猿』赤い鳥の本6、赤い鳥社、1921)
- ② 宮津 博「孫悟空」(『学校劇集』世界名作物語、光文社、1949)
- ③ 佐藤春夫「孫悟空」(『仙女の庭』富山房、1961)
- ④ 小山内薫「石の猿」(『不思議ものがたり』ネット武蔵野、2005)

まず、①と④は同じ作品を異なる形式の童話集に収録したものである。①は小山内の作品集に、④は芥川龍之介の「杜子春」などと共に昭和初期に書かれた不思議な話を集めた作品集に収録されている。①と④は孫悟空と釈迦如来が勝負をする場面に、②は孫悟空が仙術を学ぶ場面に、③は孫悟空と二郎真君との対決にそれぞれ焦点を当てたために、それ以降の部分が省かれてA II 2型となっている。なお、①・④では釈迦如来に敗れた孫悟空が下界へ帰ることになっており、原作とは異なる結末で話を終わらせている。②は孫悟空が三星洞を去る場面を、③は孫悟空が二郎真君にとられる場面をそのまま結末としている。

もう一つのグループは中華人民共和国の出版社とのつながりが見られるもので<sup>6</sup>、以下の3点を挙げるができる。

- ⑤ 唐澄『孫悟空大あばれ』(外文出版社・ほるぷ出版、1980)
- ⑥ 劉進元・福井研介『ゆかいな孫悟空』(童牛社、1982)
- ⑦ 泉京鹿『あばれんぼうのそんごくう』(中国のむかしばなし4、中国出版トーハン、2011)

これらはいずれも、二郎神君ら天兵に捕まったものの、どのような刑を受けても死なない孫悟空が、逆に暴れ出して天宮を打ち壊し、勝ちどきをあげるというストーリーになっている。特に⑥・⑦では、孫悟空が花果山に帰ってしまい、釈迦如来に会うこともないため、当然取経の旅に出ることもない。例えば⑦の最終頁の文章は以下の通りである。

太上老君は ごくうを 早くやきころそうと 弟子たちに 練丹炉を あおがせました。  
四十九日が たちました。／太上老君が 練丹炉を あけると ごくうが とび出して きま  
しました。／ごくうは 如意棒をふり回し 宮殿に 行きました。だれも ごくうを 止められま  
せん。おどろいた 玉皇大帝は にげ出してしまいました。／ごくうは 天宮で 大あばれす  
ると 花果山に 帰りました。そして 齊天大聖と書いた はたの下で 花果山のさるたちと  
いつまでも 楽しくくらししました。

中国とつながりのある⑤～⑦が、何故このようなストーリー展開になっているのかについては、明確にその原因を指摘することは難しいが、そのヒントになりそうなのが京劇におけるストーリーの改編である。加藤徹『京劇——「政治の国」の俳優群像——』（中公叢書、中央公論新社、2002）に、中華人民共和国成立直後の京劇改革について以下のような記述がある。

残りの二つのカテゴリー（井上注：有益な演目、無害な演目）に属する演目も、それぞれ「人民性」を高めるよう改編された。／一例をあげると、孫悟空が天宮で大暴れする京劇・崑曲演目『安天会』は、旧来の脚本では孫悟空が天界によって調伏されて終わる。が、翁偶虹らが改編した新しい『大鬧天宮』では、孫悟空の「造反」を肯定的に描き、結末も、彼と家来の小猿たちが天兵天将をやぶって花果山に凱旋するよう変えた。

ここに書かれた『大鬧天宮』の結末は⑤～⑦の結末と共通している。従って、⑤～⑦の絵本も京劇と同様に党の方針に沿った内容になっているのかもしれない。但し、これらが中国の絵本における一般的な結末なのか、それとも様々な結末の絵本がある中で、日本で刊行する際に、日本側の何らかの理由によってこのような結末のものを選び出したのかなど、まだまだ不明な点が残る為、ここでは類似性の指摘に止めておく。

#### 5-5. II A 1型とII C型

この二つのタイプの関係は、(2)の表3で見たとおり、II A 1型は1945年以前のもものが多く（5→1→1→1→0→1）、II C型は1992年以降増加している（2→1→0→1→3→4）。

1945年以前に刊行された小頁数児童書西遊記は、8点中6点がII A（II A 1が5点、II A 2が1点）である。I型は無く、残り2点はII C型で、宇野浩二による『孫悟空と八戒』（講談社の絵本149、1940）、『孫悟空（火ノ山ノマキ）』（講談社の絵本191、1941）であるが、これらは『孫悟空』（講談社の絵本95、1939）と同一のシリーズとして刊行されており、II C型の絵本を刊行することを意図したというよりは、II A型である『孫悟空』の続編を刊行し、3冊でI（全体）型となるよう企画して刊行されたものであった可能性が高い。そしてこの2冊を除けば、1945年以前に刊行されたものは全てII A型となることから、この時代に少ない頁数で児童書西遊記を刊行する場合、A部分を中心とした挿話の選択が行われていたといえるだろう。

その理由として以下の2点が考えられる。

1つは、本稿でも児童書西遊記の嚆矢として扱っている、『孫悟空』（世界お伽噺10、博文館、1899）の作者、巖谷小波の影響である。上述の「講談社の絵本」の作者、宇野浩二は、自分が児童文学に関わるようになった理由について、以下のように述べている<sup>7</sup>。

私が、初めて讀んだ雑誌は「少年世界」で、初めて讀んだ本は、(教科書を除いて)『日本昔噺』、『日本お伽噺』、『世界お伽噺』である。「少年世界」の主幹も巖谷小波、前記の三つの叢書の

著者も巖谷小波であった。私が、後年、巖谷小波のやうな人になりたいと思ふやうになつたのは、この時分に、毎日、これらの本を殆ど二三冊づつ讀了したのが、元になったのであらうと思ふ。

このような記述から当時の巖谷小波の影響力が窺えるが、小波が『孫悟空』で挿話を採用したパターンがまさにⅡA1型だったのである。

もう1つの理由として考えられるのが、当時、A部分のストーリーが児童文学に適していると考えられていた事である。佐藤春夫は、上述の「孫悟空」（『仙女の庭』所収）の他に、3百頁余りを費やした『西遊記』（新潮社、1940。のち、少年少女世界名作文学全集23、1960）を書いているが、この作品で彼は、これほどの頁数があるにも関わらず、猪八戒が登場する前の部分までしか書いていない。そして、その理由について、本文中で以下のように述べている。

孫悟空の主役になっているはじめの部分は、人間の少年時代を書いたもので、それだから子どもにおもしろく有益な教えが多いのだが、猪八戒が主役になると、人間のこども時代からぼつぼつはなれてしまうから、子どもにはわからぬことが多くなりすぎる。

このように、当時はA部分こそが子ども向けであるという認識が存在していた。これがこの時代、頁数の少ない児童書西遊記においてⅡA1型の編集パターンが用いられていた理由の1つと考えられるのである。

しかし、時代が下るとⅡA1型の書籍は見られなくなっていく。2002年にⅡA1型の書籍、千葉幹夫『孫悟空』（新・講談社の絵本13）が刊行されているが、これは宇野浩二『孫悟空』で使用されていた本田庄太郎の絵を用い、文章だけを現代に合うよう書き換えられたものである。従って千葉の文は本田の絵に無い場面は採用できないという制約を受けており、その結果として宇野浩二『孫悟空』と同じ編集パターンとなったもので、編者の意図による挿話の選択は行われていないと考えられる。つまり実質的には、1985年の小川睦子『孫悟空』（オレンジ絵本名作シリーズ14、オレンジ・ポコ）以降、積極的に挿話の選択が為された新たなⅡA1型の本は刊行されていないのである。

これらの事例も考え合わせて表3を見ると、やはり以前はA部分が重視されていたものが、現在も続く全体型中心の受容形態を経て、近年C部分が重視されるようになってきたと考えるのが妥当であろう。孫悟空のイメージが、「天宮を闢がす者」から「玄奘の弟子」へと変化していると言い換えてもいいかもしれない。

その現れの1つが、二次創作における孫悟空らキャラクターの描かれ方である。1980年中盤頃から、コミック等における西遊記の二次創作が盛んになったとされているが<sup>8</sup>、これらの作品の多くが、三蔵法師・孫悟空・猪八戒・沙悟浄の4人（場合によっては龍馬なども）を1セットのキャラクターとして用いている。つまり、西遊記はあくまで「三蔵一行」というユニットの物語であり、孫悟空はその中の一人（ただし最も重要な）であるという認識が一般化していると思われるのである。こ



これは、全体型の児童書を含む多くの媒体で、原作でも9割近くを占めるC部分を主な内容として西遊記が繰り返し受容されるなかで、「三蔵一行」の物語としてのイメージが強化され、固定化されてきた為ではないかと考えられる<sup>9</sup>。

もう1つ、別の角度からII C型増加の原因を指摘しておく、読み聞かせの流行に伴う物語集出版の増加が考えられる。読み聞かせ関連書籍の年代別点数（表3の区分による）は、1945年までと1946-1953年は0点、1954-1973年が4点、1974-1991年が50点、1992-2000年が132点、2000-2011年が384点と近年激増している<sup>10</sup>が、この増え方がII C型の増え方と相似しているからである。なお、II C型西遊記を掲載する書籍のうち、読み聞かせ童話集を標榜しているものに、2006年以降に刊行された4点（表1のID番号では52・55・56・60）がある。

これら読み聞かせ用物語集は一冊に多くの物語を詰め込んでおり、一つの話に割り当てられる頁数が20頁以下と非常に少なくなっている<sup>11</sup>。同様の形式でも各挿話の描写を簡略化してI型に纏めている本も存在するが<sup>12</sup>、採用した場面の描写のおもしろさをなるべく削がないように収録しようとするならば、これほど少ない頁数の場合には、部分型の方が適しているといえるだろう。もちろんA部分から挿話を採用することも可能だが、挿話一つ一つが比較的高い完結性をもつC部分からの採用が多くなることは、それほど不自然ではないと思われるのである。

## 6. おわりに

本稿では、日本における児童書西遊記のうち、頁数の少ないものについて、どの挿話が、どのような採用パターンで用いられているのかを検証し、以下のことが明らかとなった。

比較的良好に採用されている挿話は、孫悟空が玄奘に弟子入りする以前の部分では、孫悟空がサルの王となること、仙術を学ぶこと、如意金箍棒を手に入れること、天の役人となるも、天界を荒らして天兵らと戦うこと、釈迦如来によって五行山に封印されることなどである。その後の部分では孫悟空・猪八戒・沙悟浄の弟子入りの部分が多く採用され、妖怪退治では金角・銀角や、牛魔王の挿話が比較的に採用されている。そして天竺に着いて取経に至る場面もよく採用されている。

これらの挿話を児童書として纏める際には、孫悟空の誕生から妖怪退治を経て取経まで、全体的に採用する方法と、どこか一部分を採用する方法とが、共に半数程度ずつ行われている。

一部分を採用する作品は、いわゆる続編を除けば、終戦以前には孫悟空が玄奘に弟子入りする以前の挿話を中心として採用するもののみであったが、近年は悟空・八戒・悟浄らの弟子入り以降の部分のみを採用するものも増加しており、児童書の世界では、以前は西遊記といえば孫悟空が天界で暴れ回る物語というイメージが強かったものが、近年は玄奘一行の取経の旅を描く物語というイメージが強くなっているのだと考えられる。

本稿では、このような傾向を明確にするため、敢えて頁数の少ない児童書のみを対象としたが、十分な頁数を用いて書かれた児童書西遊記も当然多数存在しており<sup>13</sup>、これらについても今後検討していきたい。また、原作の生まれた中国を始め、他国の児童書西遊記との比較なども今後の課題としたい。

注

- 1 例えば「国立国会図書館サーチ」(<http://iss.ndl.go.jp/>)で「西遊記」の「本」を検索すると2693件あり、そのうち446件(17%)が「児童書」とされている(2012.11.20現在)。また「孫悟空」だと903件中、282件(31%)が「児童書」である。こうして見ると決して多くはないように見えるが、これは解説書などの関連文献が多数存在する為であり、「水滸伝」(3688件中186件(5%))、「三国志」(6567件中396件(6%))などのキーワードと比較するとかなり高い割合であることが判る。
- 2 鳥居久靖「再続 わが国における西遊記の流行——「少年西遊記」書誌——」(中文研究9、1969)。
- 3 前掲「再続 わが国における西遊記の流行——「少年西遊記」書誌——」、千野明日香「『西遊記』のダイジェスト版について」(『図説子どもの本・翻訳の歩み事典』柏書房、2002)など。
- 4 中野美代子『『西遊記』XYZ—このへんな小説の迷路をあるく』(講談社選書メチエ、2009)など参照。
- 5 平田昭吾『西遊記』(世界の名作童話 動く絵本6、産経新聞出版、2006)
- 6 ⑤は北京の外文出版社が、日本のほるぷ出版の発売で刊行したもの。⑥は編者劉進元・再話福井研介となっており、最終頁に「この本のさしえは(中略)中国・人民出版社が提供して下さったものです」とある。⑦は中国出版トーハン株式会社の刊行物で印刷は北京、「中国図書の海外普及認定図書」であることが帯に書かれている。
- 7 宇野浩二「遠方の思出」(『遠方の思出』昭和書房、1941。のち、宇野浩二全集12、中央公論社、1969)。
- 8 佐々木睦「『西遊記』東遊録 サブカルチャーにおける中国古典小説の二次創作に関して」(アジア遊学105、勉誠出版、2007)
- 9 同様の傾向はTVドラマの「西遊記」にも見ることができる。1978年～1979年に日本テレビ系列で放送された「西遊記」では第1回でA部分の内容をきちんと描いているのに対し、2006年にフジテレビ系列で放送された「西遊記」では玄奘が三人の弟子と出会うところから始まり、取経の旅のみを描いている。
- 10 上記「国立国会図書館サーチ」で「読み聞かせ」を書名のキーワードとして、年代別に検索した「本」の点数(2012.11.20現在)。
- 11 各書籍における作品名と頁数は以下の通り(番号は表1のID番号)。52「そんごくう」16頁、55「西遊記 講談」6頁、56「西遊記より抜粋」20頁、60「三蔵法師のお供」「魔法の瓢箪でやっつけろ」「火の山をこえて天竺へ」各1頁計3頁。
- 12 表1のID番号で示すと、57・58・60などがこれに該当する。
- 13 筆者によるウェブサイト「子どものための西遊記」(<http://mediamarker.net/u/guanhua/>)参照。